トンボとり大作戦報告会・表彰式
〜観音崎に生きもの好きが集まりました〜

日　時：2023年11月26日(日）14:00〜15:30
会　場：観音崎自然博物館

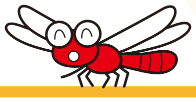
観音崎自然博物館学芸員の佐野真吾さんから**「千葉県から東京湾を越えて観音崎へトンボやゲンゴロウが飛んできます。」**という興味ぶかい講演があり、トンボ博士の田口先生とジュニア調査員の國師鷹晶さんからは今年の本調査およびトンボとり大作戦調査の報告がありました。**タイワンウチワヤンマが増えている状況が心配ですね。**

そして休憩をはさんで、ジュニア調査員養成講座報告、認定証授与とスタンプラリー表彰が行われました。

（写真提供：覚張信行さん）

表彰された皆さんとジュニア調査員

会場の様子



新ジュニア調査員の抱負

井上瑛翔（小４）

わたしの２０２４年の抱負は、トンボの種類とそれらのつかまえ方、特ちょうを覚えることです。どうしてかというと、トンボのジュニア調査員は、わたしが思うには、トンボのせんもんかなので、トンボのことをくわしく知っておかないといけないからです。また、それらのことを知れば、もっとトンボをつかまえることや、少し考察もできるかもしれないからです。

土井源太（小６）

ぼくは、この一年間トンボとり大作戦に行って、とても楽しかったです。とても貴重な経験もできて、かなり勉強になりました。２０２４年の抱負は、習い事や勉強などで行けないことが多いかもしれないけれど、できればたくさんトンボをとって少しでも調査にこうけんしたいです。

美しい海辺に立つ観音崎自然博物館

新しい参加団体の紹介

新たにフォーラムに参加した観音崎自然博物館を紹介します

観音崎自然博物館とは？

観音崎自然博物館は、神奈川県横須賀市の海辺にある自然史博物館である。「三浦半島と東京湾集水の自然」をテーマに展示や調査、研究、保全、イベント、自然体験学習等の活動をおこなっている。館内には、博物館としては珍しく、生体展示やタッチープールがあり、子どもも楽しめる体験型の展示がある。また、庭からは東京湾とたたら浜が一望でき、ゆったりとした空間が広がっている。博物館での調査やイベント、学芸員や一緒に活動する子どもたちの様子は、YouTubeチャンネル「どたばた学芸ちゃんねる」で配信している。

観音崎は「絶滅危惧種」や「絶滅種」が突然現れる不思議な場所

観音崎では、神奈川県での絶滅種や絶滅危惧種が多く発見されている。代表的な種としては、チョウトンボ（絶滅危惧IB類）、ネアカヨシヤンマ（絶滅危惧ⅠA類）、カトリヤンマ（準絶滅危惧種）などのトンボ類、コガタノゲンゴロウ（絶滅種）、シマゲンゴロウ（絶滅危惧ⅠB類）、カミヤコガシラミズムシ（絶滅種）などの水生昆虫類である。ではなぜこのような希少種が突然出現するのだろうか。これには観音崎という地域の位置が大きく関係している。観音崎は神奈川県の東端の海沿いに位置することから、台風や大風の影響を受けやすい。さらに海を挟んだ先にある千葉県との距離が10キロメートル以下という極めて近い距離にあることから、千葉県や他地域からの影響を受けやすく、台風や大風によって飛ばされてきた種が迷入しやすい地域なのだ。観音崎は県内において非常に特殊な地域と言える。

観音崎に突然出現する珍しい昆虫たち

館内の展示

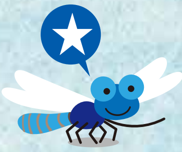
東京湾を広い一つの地域として考えることが重要

観音崎は、自然度が高い房総半島に、最も近い距離にあることから、他の地域よりトンボや水生昆虫が迷入する確率が高いと思われるが、東京湾内では横浜や東京の臨海部でも迷入していることが知られている。特に臨海部のビオトープからは報告が多く、虫たちが東京湾を渡って移動していることが伺える。トンボはドコまで飛ぶかフォーラムでの調査は、そんな東京湾内の水辺のネットワークを可視化する重要な活動である。観音崎自然博物館では、観音崎での新たな水辺づくりや、供給源である房総半島での水辺づくりを始める予定である。生物の分散と供給がある東京湾沿岸地域では、東京湾という広い地域を一つの生息地として、各所で生息地を増やしていくことが重要である。そして、観音崎や房総半島でもフォーラムの調査を実施していきたい。

博物館外観

臨海部と内陸部の調査地点で見られる青いトンボ

シオカラトンボ・オオシオカラトンボ・ハラビロトンボ・コフキトンボのオス（成熟）を見分けてみよう。



START

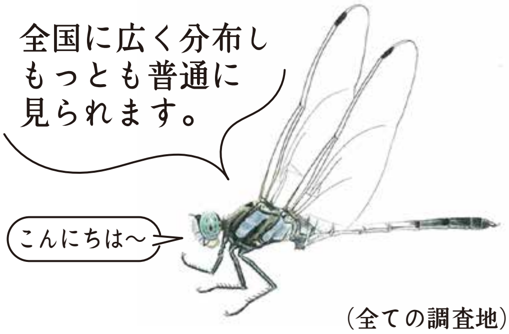
複眼は水色（緑）or 黒い（灰色）？

水色（緑） → シオカラトンボ（♂）

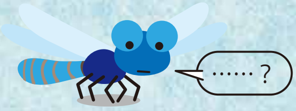
黒い（灰色） → 翅の基部は黒い？

シオカラトンボ（♂）

全国に広く分布しもっとも普通に見られます。



（全ての調査地）



翅の基部は黒い？

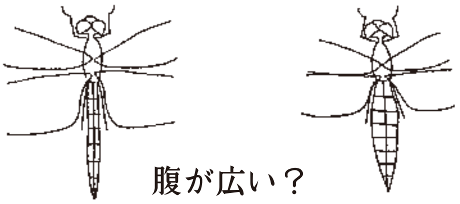
黒い → オオシオカラトンボ（♂）

黒くない → 腹が広い？

オオシオカラトンボ（♂）

周囲が樹林にまれた閉鎖的な環境を好みます。

（マツダ・技調・入船以外の調査地）



腹が広い？

広くない → コフキトンボ（♂）

広い → ハラビロトンボ（♂）

コフキトンボ（♂）

シオカラトンボを一回り小さくしたような中型のトンボ。

（二ツ池・三ツ池）

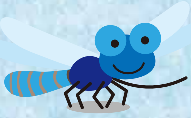
ハラビロトンボ（♂）

腹部の扁平な小型のトンボ
前額は青藍色の金属光沢があります。

（JFE・JVC・横浜 SF・本牧・根岸）

注意：青いトンボはこの４種以外にもたくさんいます。違和感を感じたら写真を撮っておきましょう。

トンボを見分けることで、この緑地は種類が多いな、あの緑地は種類が少ないなと気付く事ができ、生物多様性の保全、緑地の保全に繋がると考えています。



参考文献：「日本のトンボ　改訂版」尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮　（文一総合出版）
「近畿のトンボ図鑑」山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明　（いかだ社）

イラスト：中井　裕子